ブラジル　Colégio Novomundo　番場新

留学期間：R6.7～R7.6（1学年間）

交換留学開始から 5 カ月が経ち、私が住む街の PraiaGrande(プライアグランジ)の風景にも安心感を覚えてきました。私の留学を支援して頂いている国際ロータリーという団体が催す大きな旅行にこそまだ行けていないものの、今までの 5 カ月はとても有意義だったと思います。

まず、周囲を形成する人々が全て変わる、という経験は貴重です。特に、交換留学においては血縁的家族とホストファミリー、という風に家族までもが変わるため、より刺激的な変化を体験することができます。それによって私が経験した大きな試練が一つありました。それは「学校」です。私は友達と過ごす時間が好きなので、たくさんの友達を切望していました。しかし、ブラジルではポルトガル語が使われているため、それをある程度習得しなければ話になりません。周りの人は「外国から来た生徒」として私と積極的に交流してくれますが、その間に友達になれるように頑張らないと飽きられてしまいます。しかし、日本語もポルトガル語も話せて私の味方をしてくれるスーパーヒーローが学校にいるわけではありません。私が、私の力で道を切り拓いていかなければなりません。この経験はとても私を成長させてくれますし、今後の人間関係を作っていく上での自信になります。ちなみに私は、相手の発音をオウムのように真似て、つまりオウム返しをして、その時場が盛り上がれば「このフレーズは面白いジョークの一種なんだな」と心にメモを取って、次に会う人に対してそのフレーズを言い、「この日本人、なかなか面白いヤツ」だと思わせて最初の三日を過ごしました。それが功を奏したのか、それともブラジルの文化か、その両方かは分かりませんが最初の金曜日にお昼ご飯に誘われました。バーガーキングは日本でも食べたことがありますが、そのとき食べたハンバーガーはとてもおいしく、日本とは違う味に感じました。もう少し学校の話を続けますが、ブラジルの学校は日本とは大きく勝手が違い、高校生でも授業が 13 時までしかありません。各授業と授業の間の休み時間は作られていないのですが、先生が教室を出ていくと（始めと終わりの挨拶もありません）次の授業を担当する先生が来るまで教室が騒がしくなります。そのためただでさえ短い 45 分の授業がさらに短くなり、クラスメイトの勉学が心配になりました。授業中は寝ていたりノートに落書きをしたりする生徒がほとんどなので、本人たちは気にしていないみたいですが…。ただ、学校としては良い施設で、唯一の休み時間であるインターバルでは生徒たちは屋根付き運動場でサッカーをすることができたり、購買でパンやジュースを買ったりできます。この時間は私にとってポルトガル語を吸収する大きなチャンスです。なぜなら、授業で使われるポルトガル語は専門的な用語が入り混じり、あまり実用的ではないからです。友達との会話にこそインプット・アウトプットが生じます。私はほぼ友達や家族との会話でポルトガル語を学びました。学ぶ姿勢を見せると、相手はとても喜んでくれるので、一人で学ぶより楽しく学べます。

次に、食についてですが、私はブラジルの食べ物が大好きです。大きくふたつ、長所があります。一つ目は、お肉です。ブラジルでは churrasco(シュハスコ)というバーベキューがあるのですが、それに使うお肉は百科事典のように大きく、初めて見たときはとてもびっくりしました。そのお肉を炭火でじっくりと焼き、一度いくつかに切り分けてもう一度焼きます。(それでもまだ結構大きい) そして、自分の皿に盛って、塩を振り、ナイフとフォークを使って食べます。中は赤くレアですが、生焼けの時のような噛み切れない感覚は全くなく、やわらかい食感とジューシーなお肉の旨味を大きな一口でダイレクトに味わうことができます。今説明した churrasco は主に家庭で行われるものなのですが、レストランでは違った様式で提供されます。このような違いもブラジルに来て初めてようやく体験できるものだと思います。何より、国を超えて別のベクトルからやってくる「おいしい」は「この国に来て良かった！」と思える大きな理由になります。二つ目は、果物です。ブラジルの果物は植生の関係で日本では珍しいものや、そもそも売っていないものもあります。ブラジルはマンゴーやパイナップル、バナナの生産が盛んですが、fruta do conde(フルッタ・ド・コンジ)や jabuticaba(ジャブチカバ)という、聞き覚えがな

い果物も食べることができます。特に前者は形、味、種の入り方などすべてが特徴的で、それでいておいしかったです。また、私はこれらの食べ物が売っている feira(フェイラ)という市場に行きました。肉屋さん八百屋さんたちの声が響いている中で山積みになったリンゴ（ふじよりも小ぶり）やニンニク（紫がかっている）を眺めるのは楽しかったですが、私と変わらないような年端の少年も働いていて、（手伝いではなく、大人と変わらない仕事でした）立派だなあ、と思いました。

最後に、家族についての経験です。今後海外へ行く留学生、交換留学生に向けて言いますが、基本的に愛情をもって接してくれるので、過剰に不安になる必要はないと思います。実際に、私の意見を尊重してくれますし、サンパウロやサッカースタジアムに連れて行ってくれます。私が大切にしていることは、自分も相手に対して本当の家族のように感謝と愛情と敬意をもって接することです。そうすれば、家族関係が悪くなることはほとんどありません。ブラジルの家庭の特徴についての話もしますが、親戚関係、友達関係共々とても大切にしているということです。一度、第一ホストマザーの叔母（私にとっての大叔母）の誕生日会に行きましたが、30 人もの親族が一堂に会し、パーティー会場がとても混み合っていました。私は細田守監督の映画「サマーウォーズ」を思い出しました。彼らは全員仲が良く、そして急に現れた日本人の私にも興味を持って話しかけてくれました。面白かった事は、人によって体に流れる血のルーツが違うということです。ヨーロッパ系や中南米系の血を持っている人が居て、日本との違いを感じました。特に興味深かったのは私の大叔父で、彼はエジプトに 45 年も居たそうで、その時の写真を家に飾っているそうです。その時の話を聞いて理解できるほどポルトガル語が上達していないことが悔やまれました。このように、家族とのパーティーでは貴重な体験ができるので、行けば必ずいい経験になると確信しています。

まだここに書ききれない経験が山のようにありますが、そのどれもがいい思い出になったり、自分の成長の糧になったりしています。この 5 カ月で得られたものは 5 カ月前に期待していたもの以上でした。今後も一日一日を噛みしめて楽しんでいこうと思います。

プライアグランジの一番の特徴である大きな海岸。サンパウロなどの内陸の街から観光客が海を求めてなだれ込んでくる。

Colégio Novomundo で出来た友達。学校初日の写真。

別の友達に誘われて行ったバーガーキングでの写真。注文の方法なども友達が教えてくれた。

インターバルでトランプをして遊んだ時の写真。日本にはない、「トゥルオッコ」というゲームをした。

巨大なお肉とそれを焼くための churrasco の窯。パーティーの人数が多いときは金網いっぱいにお肉が並ぶ。

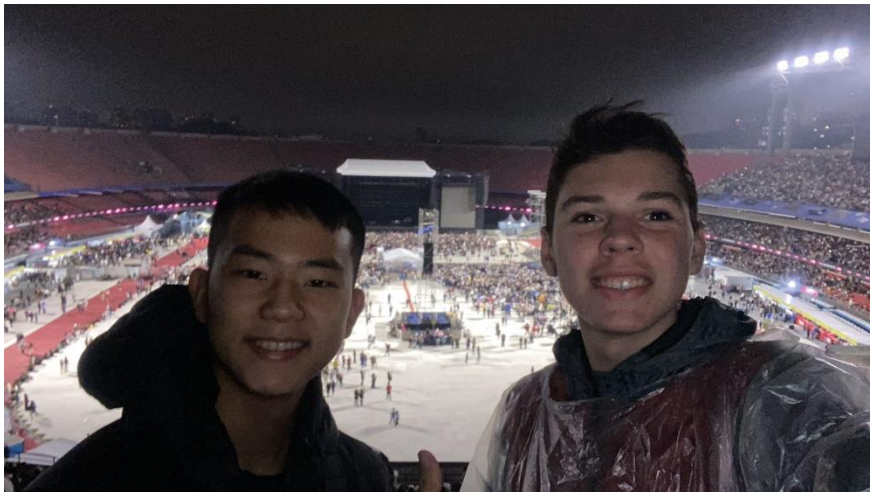
フルーツバスケット。放射状に雫がならんだような皮を持つ果物が fruta do conde。その他にもマンゴーやパパイヤが入っている。

第一ホストファミリーのホストブラザー達。向かって右の Guilherme も交換留学生。
ブラジルも米食文化だが、ニンニクと油、塩と一緒に炊くインディカ米なので、
相当味が違う上に、Feijão(フェイジョン)という豆スープをかけて食べるので、
全く別の穀物を食べているように感じる。フライドポテトの味は同じ。

大叔母の誕生日パーティーで集まった親戚たち。パーティーはとても楽しかったが、彼らの名前を覚えるのが本当に難しく、親戚たちはすぐに私を Arata と呼ぶので少し申し訳ない気持ちになった。

サッカー観戦に来た時の写真。サントス FC の応援 T シャツをホストファザーがプレゼントしてくれた。名前入りなのでとてもうれしい。

もう一人のホストブラザーの Bento くんとプールに入っている時の写真。
ブラジルの裕福な家庭はコンドミニアムという集合別荘地に別荘を建てることが多く、このプールは第一ホストファミリーの別荘のプール。



ブルーノ・マーズという有名な歌手の LIVE に行った時の写真。隣にいるのは第四ホストブラザーの Luigi。親同士の仲がいいのでプライベートでよく会う。
とても寒かったが、ブルーノ・マーズが歌いだした途端寒くなくなったので、一流の歌手は凄いと思った。

Feira の写真。果物、肉、魚、スパイスまでもが山積みになって売っていた。
人だかりが道を埋め尽くしていた。